

チェコの小型犬ブラシュスキー・クリサジーク

チェコ共和国原産の小型犬ブラシュスキー・クリサジークをチェコと協力してブリードしている PKJ

ブラシュスキー・クリサジーク・クラブ・オブ・ジャパンのブログ

「PKJ 親睦会 2017」速報を写真でお届け。

2017.06.08 Thursday

5月27・28日に
2年に一度の
PKJ 親睦会が開催されました。
ご参加の方々から
お写真をいただきましたので
クリサジーク達の
楽しそうな様子を
ご覧になって下さいね。



ワラワラとドッグランを自由散策。



遊びたいんだね。



穏やかなクリサジーク達。



可愛いお座り姿。



ママのお膝でまったり。



手前は、美しい茶色のクリサジーク。



可愛い系のクリサジーク。



仲良し



キャリーバッグで一休み。



チェコから贈られたメルレ(マール)のクリサ

以上、PKJ 親睦会 2017 速報でした。



PKJ13 周年を迎え、組織変更のこと等

2016.12.23 Friday

ご無沙汰をしてしまいました。

2016 年も終わろうとしています。

PKJ は、10 月 10 日に

13 周年を迎えました。

組織の変更が行われ、
副代表が代表に就任し、
事務局と会計を分け、
機能を全て関東へ移行しました。
(銀行口座の番号 変更しています)

PKJ 会員の皆様には
組織変更のご挨拶等を
封書で送らせていただきました。

ご住所の変更等で、
お知らせが届いていない
会員さんがおられましたら
メールでご一報をお願い致します。

チェコでも今年は、
規則の変更の微調整が
ありました。

そのひとつが、ボニタツェ委員の数です。

最初、日本でボニタツェを
行う際、審査員が一人で検査を
担っておりましたが、審査員の他に
2 名の委員が必要となりました。

その後すぐ、委員の数が2人から
3人へと変更され、審査員を含め、
4人揃わないと検査が出来ません。

また、数字よりも、
犬の資質を重んじ、審査員が、
クリサジークとして良い犬か
どうかを判断していた部分を、
誰が見ても公平な「数値」で

明確に判断する傾向へと変化
しているようです。



右は、日本で最初に生まれた仔犬のうちの 1 頭。
2001 年当時は、日本ではボニタツエが出来なかった。
左は、2002 年にチェコで生まれた女の子。
特例で幼犬時にチェコで審査に合格してから来日した。

謹賀新年

2016.01.03 Sunday

あけましておめでとうございます。

昨年の PKJ は、
大きな変化の一年でした。

代表の退任に伴い、
副代表が代表に就任。

チェコ本部で
繁殖審査員が廃止され、
繁殖コーディネーターという
新しい制度が誕生しました。

その「繁殖コーディネーター」に
PKJ 新・代表が承認され、PKJ では
ボニタツエを再開致しました。

新・代表を中心に組織作りをするために
運営委員会のメンバーも
新しく増えました。秋には、

チェコから来日があり、
急遽、ボニタツェ検査関係者の
勉強会が開かれました。



クリサジークも
赤の女の子、
ブラック&タンの男の子、
メルレ(ぶち)の男の子が
新しく PKJ のメンバーに加わりました。



2016 年は
いろんなことが
動き出すことになりそうです。

本年も PKJ を
よろしくお願い致します。



2015.10.11 Sunday

またまた
ご無沙汰して
しまいました。

2015年10月10日
PKJは12周年を迎えました。

いろんなことがありました。

初夏にチェコから
新しい犬達が来ました。
日本で初めての
レッドもいます。



9月6日に
ボニタツエを再開出来ました。

10月1日付けで
新体制が整い、
滞っていたことを
速やかに進めております。

そして本日、
希望に満ち満ちた
12周年となりました。

10月末には、
日本で初めての

メルレ(マールーブチ)の
オスもやって来ます。

原産国のチェコでは
今、小型犬であっても
歯が揃っている...ということを
とても重要視しています。

秋に来る男の子は
歯が全部揃っているのが
自慢なのだそう。

小型犬は歯の欠損が
多いので、一石を投じる
お父さん犬になってくれると
うれしいです。

12 周年ありがとうございます。

今後とも PKJ を
よろしくお願い致します。

PKJ10 周年感謝です！

2013.10.10 Thursday

ずいぶんと
ブログをお休みして
しまいました。

本日、
プラシユスキー・クリサジーク・
クラブ・オブ・ジャパン
創立10周年を
迎えました。

あれから10年・・・

いろんなことが
いっぱいありました。

まだ日本に
クリサジークが居なかった頃、

チェコで
世界平和のための
アートプロジェクトが
進行中だったんです。

日本からも
著名な彫刻家が
参加していました。

彼は愛犬家。
そして著名な画家である
主催者@チェコ人も
愛犬家でした。

平和を愛する2人は意気投合。

主催者は
日本人彫刻家に
「あなたを信頼し、
チェコの国犬である
クリサジークを
託したい。」
と言いました。

チェコ人が大切に
育ててきた犬種ですが、
当時、国外ではほとんど
知られていませんでした。

チェコのケンネルクラブでは
犬種として認められていましたが、
FCIでは未だに未公認です。

でも、
世界平和を祈る気持ちと
アートを愛し、
犬を愛する人達の
友情と信頼が
クリサジークを
日本に連れてきたんですね。

この最初のお話は
いつ聞いても感動します。

クリサジークは
世界平和の象徴のような

犬だと思ったりしますし、
友情と信頼を
大切にしよう...と、
教えてくれるような
気もします。

PKJのクリサジークの
始まりには、そんな素敵な
ストーリーがあるのです。

10 周年を迎え、
最初の物語を振り返って
みました。

「PKJの初めて物語」

心のどこかで
覚えていただければ
とてもうれしいです。

Happy Birthday to PKJ

お陰様で 10 周年です。

どうもありがとうございます。
そして
これからも
どうぞよろしくお願い致します。

日本で初めて生まれた子犬は 11 歳。
PKJ はまだ出来ていませでした。



12 年前の 5 月 15 日に日本で初めて子犬が誕生しました。

2013.05.15 Wednesday

12 年前の今日、
日本で初めて
プラシユスキー・クリサジークの
子犬が誕生しました。

その 2 年後に
PKJ が設立され、
日本国内におけるクリサジーク達の
血統管理を行って来ました。

近年、チェコ本部が
「FCI 公認」目指す中でいろんな変容がありましたが、
PKJ の本質は受け継がれてきました。

12 年前の子犬は、
今日 12 歳になりました。

12 年前の今日、3 頭の子犬が産まれました。
そのうちの 1 頭が彼です。



PKJ で今、
一番小さい子達は
1 ヶ月強のベビーズです。

ピチピチ♪
とってもキュートな女の子達



なんかアーティスティックなお写真☆

12 年間いろんなことを
乗り越えながら
命を育んできたPKJを
これからもどうぞよろしく
お願い致します。

PKJ は 9 周年を迎えました。

2012.10.10 Wednesday

穏やかな秋晴れのこの日、
PKJは創立9周年を迎えました。

9年間、ほんと
いろんなことがありました。

最初は 20 頭にも満たなかった
PKJのクリサジーク達は、
今や 100 頭を越えました。

数十年前は、世界に 600 頭位、その大半が
チェコ共和国のプラハに居ると
日本の犬種図鑑の説明にありました。

チェコの国犬クリサジークを
なんとか世界に広めたい。
その、手助けをして欲しい...と、
託された2頭のクリサジークが
PKJの始まりです。

平和のための
アートボランティア活動に
参加した日本人彫刻家と
主催者であるチェコの芸術家ご夫妻が、
共に犬好きでなければ、
クリサジークは、
平和や友情、信頼の中で
日本に託されることは
なかったかもしれません。

9年経って、
プラシユスキー・クリサジークを
巡る様々なことが変わってきています。

FCI 公認犬種を目指す、
そのために、
世界中から、公認支部が無くなり、
「協力団体」として犬種育成に取り組むようになったことも
そのひとつ。

親犬になれるかどうかを
検査するボニタツェ審査員は、
経験が重要視されたため、
チェコに3人しかいませんでした。

PKJ代表が4人目の審査員となり、
日本でも繁殖が認められたことで、
PKJは、日本におけるクリサジークの
血統管理機関としてスタートを
切りました。

が、「協力団体」となった今は
少しスタンスが違います。

それでも、
チェコの遺伝学者2人と共に
クリサジークに大きく係わった
犬博士であるヤン・フィンデース氏の教えを
忠実に守って、伝統的な愛らしい
クリサジーク達を育成し、
日本に広めるという気持ちは
ずっとPKJの根底に流れています。

故フィンデースさん、
チェコの日本窓口や
クリサジーク達のお里のチェコの犬舎、
チェコのクリサジーク・クラブの方々、

チェコのケンネルクラブの方々、
日本で活動を支援してくれるスタッフや通訳さん、
あたたかい家庭でクリサジークを育てて下さる繁殖者の皆様、
クリサジークを愛してくれる会員の皆様、
これからクリサジークと暮らそうと
待っていて下さる皆様。

たくさんの素晴らしい皆様のお陰様で
PKJは9周年を無事迎えることが出来ました。
皆様に心から感謝致します。
本当にどうもありがとうございます。

10年目を迎えたPKJを
どうぞよろしくお願い致します。

親睦会にて おいおいで競走スタート風景



親睦会にて 初めて見たラブラドルの尻尾が気になる！？



親睦会にて おやつに集まるクリサジーク達(別犬種もいます)



謹賀新年

2010.01.01 Friday

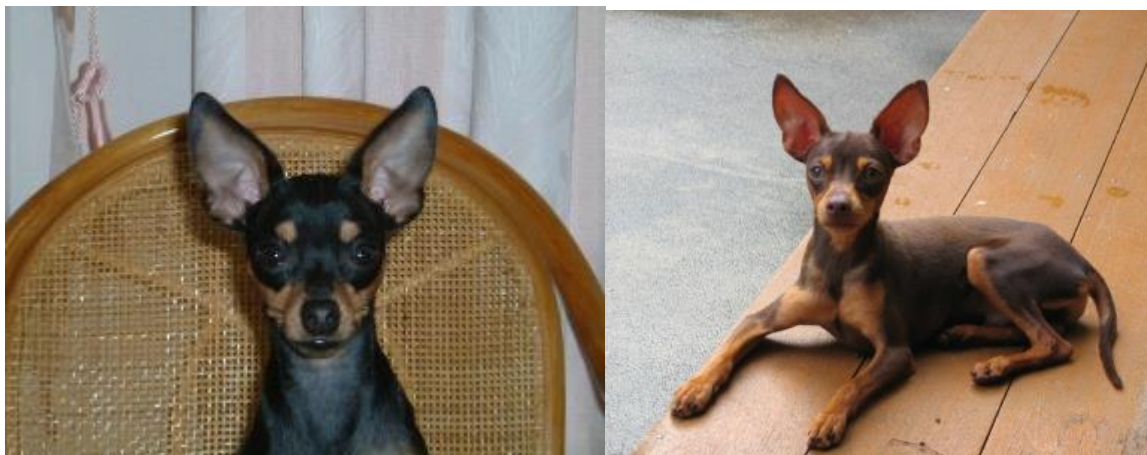
あけましておめでとうございます。
今年も PKJ をよろしくお願いいたします。
みなさんはどんなお正月をお過ごしでしょうか？

わが家は主人の実家に義兄弟家族も帰省し、にぎやかなお正月を迎えています。
岐阜のお雑煮はとてもシンプル。
おすましにお餅と正月菜(小松菜の一種)のみで、最後にかつお節をたっぷりかけていただきます。
シンプルですが、お出汁をきちんととるのでとても味わい深いお雑煮です。

PKJ
PRAZSKY KRYSAŘIK
CLUB OF JAPAN

さて、PKJ。
気持ちを新たに！
ということで、お馴染みのロゴについて少々。

真ん中の「K」の字はクリサジークの特徴である大きな立ち耳を模していますが、
みなさん気付いていましたか



カラーもクリサジークのブラックとブラウンのイメージです。

6年前、正式発足に向けてロゴが欲しくなりました。
それも PKJ らしい、クリサジークがイメージできるような。

望みは高いが、私にはロゴを作る能力はありません。
で、デザインをお願いしたのがお仕事柄こんなこともお得意な義兄。
PKJ 発足のお祝いとしてプレゼントしていただきました。

お義兄さんには今年もおいしいお雑煮とおせちでも食べて(義母作だけど・・・)
ゆっくりしていてもらいましょう。
ありがとうお義兄さん♪

親睦会2009in 高山

2009.09.24 Thursday

今年も PKJ の親睦会が開催されました。
年に一度のお楽しみです。
参加はワンコ 43 頭、その家族 33 人の大所帯。
やっぱりワンコの方が多かったのね・・・。

可愛いワンコ
素敵なお家族
美味しいごはん
美味しいお酒
美味しい空気

言うことなし！
の二日間でした。

また来年お会いしましょう！





5周年

2008.10.10 Friday

PKJは本日5周年を迎えました。

現在、会員犬80頭。

1頭1頭の顔とご家族が目に見え、
こんなに増えたのかと、しみじみ。

これからも、PKJは日本のクリサジークの維持・発展に努めます。
真面目に、ゆっくり、着実に、歩んでいきたいと思っていますので、
今後もPKJをどうぞよろしくお願いいたします。



日々愛犬たちとの生活を楽しんでいる会員ご家族。
クリサジークを通して皆さんと巡り合えたことに感謝です。

ファイト！

2008.06.11 Wednesday

現在PKJは会員数36名、登録犬77頭。

今年の秋で5周年です。

私がクリサジークと暮らすようになって10年が過ぎました。

でも、日本のクリサジークの歴史は始まったばかり、まだまだこれからです。
まだ、10年ですから。

「PKJのクリサジークは、良いですね。活動を評価していますよ。」

先日、チェコからそんな過分なお褒めの言葉をいただいて、

「そう？！ そうかな…？」

…でも、結構そうでしょ！」

と、ちょっと浮き足立ってしまった私。

PKJで生まれたクリサジークたちは本場チェコの方々が見ても中々の粒揃いなんだそう。

皆で一生懸命やって来たからなー。

PKJは良い会員さんにも恵まれた。

皆さん、ありがとう。

PKJは予想以上の成長で、

「ゆっくり、確実に。」

なんて言っていた私は、世の中の波に乗れなかったりもする。

目の前の仕事をこなすので精一杯だと、大きな視野で物事を見ることができなくなってしまう。

判っていても、下向き加減に歩いてしまう事も。

でも、ほめていただくと俄然やる気になるのです。

で、これからもがんばろう、と思った次第です。



犬種図鑑

2007.04.18 Wednesday

今でこそ、クリサジークもいろいろな書籍に紹介されるようになったが、

つい数年前までは

たった一冊の図鑑でしか見ることが出来なかった。

初めて手にしたのは1997年、チェコに住むことが決まった年だった。

そこには両手で支えられた

華奢なクリサジークの写真と共に、

「チェコ・スロバキアにしかない、

非常に珍しい犬種」と紹介されていた。

犬種名は「プラツキー・クリサヴィク」
プラハの美しい犬の意味、とある。

「おいおい！違うじゃないの。」(3月7日のブログ参照)

が、その頃は「素敵な名前だな」なんて思ったものだ。

写真だって「なかなかいませんよ」ってくらい小さくて、
今なら痩せた幼犬だとわかる。

反して、私が初めて会ったクリサジークたちは生き生きと明るく、
小さいながらもしっかりとした身体をしていた。

天使のように愛らしく、チャーミングだった。

今、私の知るクリサジークの全てが、
あの図鑑の子よりずっと健康的で美しいと思う。

でもあの子がいたから、
クリサジークとの初対面はより衝撃的なものとなり、
クリサジークと共に生活する今の私がいるのかもしれない。

どこで暮らしているのだろう、あんなに弱々しくて、元気なのだろうか。

久しぶりにページを開き、
もうおじいさんになっているだろうあの子を腕に抱いて

「ありがとう。」を言いたいと、ふと思った。

